

# ナイスケアだより

第123号

令和4年8月発行

長い期間の猛暑とコロナ第7波の感染拡大で厳しい夏が続いています。ナイスケアの事業としては日々の業務をぎりぎりの状態で何とかやりくりしながら乗り切っている印象です。

私自身としては仕事だけでなく母親の認知症介護に直面し、試練の夏になっています。仕事が休みの日に泊まり込みで介護をする日は精神的に参ります。日頃仕事でご家族に認知症の対応をアドバイスさせていただいていますが、自身の介護となると肯定したやさしい声掛けなどの対応をするのは難しいことを痛感します。1日母親と一緒にいて、同じ話を聞き続け、物がすぐ無くなり、夕方は不穏となり付き切りでの対応は精神的に参り、知らず知らずのうちにきつい言葉かけになっています。

認知症介護は、気が付かないうちに様々な事を抱え込んでしまい、介護者自身が精神状態を壊し、共倒れになってしまう危険があります。身の回りの人に相談し、協力体制の確保や介護サービスなど社会資源を活用することが大切です。介護は終わりが不透明で継続の必要性があります。私も無理なく自身の健康や休養を取りながらリフレッシュした状態で介護を続けることを心掛けたいです。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

## ～カツオノエボシ～

先月、神奈川県内で海開きがありました。新型コロナの影響で2年連続開催が見送られた鎌倉市では、由比ガ浜海水浴場で3年ぶりとなる海水浴場開き式が行われました。

一方で海開き前から湘南海岸一帯は、猛毒を持つ『カツオノエボシ』が打ち上げられていたそうです。

『カツオノエボシ』は沖合で生活し、この時期に南風が吹くと湘南の海岸各地に流れ着きます。一見青い風船のようにかわいらしく美しい見た目ですが、長い触手にはクラゲ特有の毒針があり、刺されると腫れたりしびれて激痛が走ったりするため『電気クラゲ』とも呼ばれます。『カツオノエボシ』には特徴的な10cm程の浮袋があり、二酸化炭素を主とした気体が詰まっていてこれを使って浮いています。『カツオノエボシ』自体に泳ぐ力はほとんどないとされ、浮袋を膨らませたりしぼませたりしながらぷかぷかと海流に乗って来るのだそうです。

クラゲの世界はまだ奥が深く神秘的な謎がいっぱいです。水族館などでクラゲ展示を見る際はそれぞれのクラゲの特徴を観察してみてください。

木島 英子